会である三条市医師会に状況を伝えた。経営主体において検討されるものと考える。

県央医師会応急診療所

武石 栄二 議員の質問

少子化に伴う小学校の統廃合等

Q しただの郷未来の学校設置準備委員会の進捗状況等について

A 統合時期は令和10年4月開校予定とし、今後、個別具体の項目について検討したい。

Q 少子化の進行に対する全市的検討について

A 9年度に検討を再開し、小学校だけでなく、中学校の在り方等も保護者や地域の皆さまの考えを聞きたい。

Q 小学校の跡地利用について

A 災害時の避難所として機能している。当該校舎の立地なども踏まえ、全庁的な施策の視点で検討していく。

八十里越開通を見据え、観光等を含めた交流人口拡大に向けた持続可能な取り組み

Q 大谷ダム、笠堀ダム周辺について

A 遊歩道や資料館などを含め、魅力的な場所だが、県所管施設のため、県と連携する中で今後の活用について模索したい。

Q 足湯の設置が持続可能な交流人口の増加の一助になるのではないか。

A 市場のニーズ、湯量の確保等を念頭に置きつつ、★サウンディング型市場調査の参加事業者と意見交換しながら設置の可能性について検討したい。

森林環境譲与税

Q 三条市に交付された2674万6000円の活用と実態はどうか。

A 森林組合が行う森林整備を支援する民有林造林事業、里山環境整備、緩衝帯整備、林道の維持、修繕の経費に充当している。

佐藤 和雄 議員の質問

地域の集会所の現状と課題

Q 地域にある集会所は単なる建物ではなく、地域の人々が自然に顔を合わせ、助け合い、学び合い、支え合う大切な場であり、災害時には避難や情報共有の拠点としても機能する重要な地域資源である。その一方で、老朽化の進行や担い手不足、物価や工事費の上昇により、維持や修繕、更新の負担が地域に重くのしかかっているのが現状である。市としてそれらをどのように把握しているのか。

また、補助金の活用実態や周知状況、補助額は十分か。そして、今後の支援の在り方をどう捉えているか。市の柔軟な対応を望む。

A 毎年度の要望調査や自治会長からの相談、アンケート調査や訪問を通じて、施設の老朽化や担い手不足など地域の実情を把握している。補助制度として市の集会施設建設費等補助金とコミュニティ助成事業があり、多くの自治会に活用されている。また、耐震改修や雪下ろしアンカー設置を補助対象に加えるなど制度の見直しを進めており、今後も地域の声に丁寧に耳を傾け、安心して集会所を維持できるよう支援の充実に努めていきたい。

竹山 嘉一 議員の質問

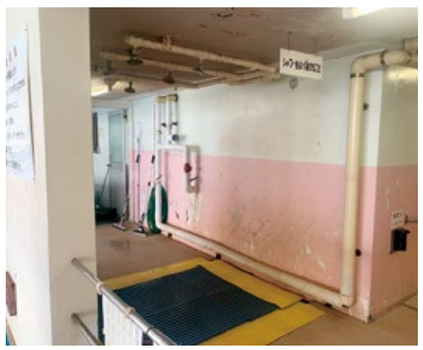
ふるさと納税を活用した市民プール建設基金創設

Q 市民プールは昭和48年完成でかなり古い。建て替えか廃止かいつ判断するのか。

A 遅くとも令和10年度中に判断する。

Q 市民プール建設目的でふるさと納税を毎年2億円ずつ積み立てていく等を考えるべき。法的に可能か。

A 制度上は可能である。


昭和48年完成で築53年の古さを感じる市民プール

熊による人身被害防止対策

Q 熊目撃や痕跡情報がメール配信された後、熊がまだいるかどうかの結果の情報配信がないため、外に出ていいのか分からないという市民の声があった。結果の配信はしていないのか。

A 熊がいないことが確認された旨を記載する等、今後は丁寧な情報発信に努める。

Q 根本的な対策として、柿の木伐採を市の主導で行う等、熊出没要因そのものの除去を行わないのか。

A 空き家や高齢世帯等の伐採が困難で、地域で対応する場合の支援を用意している。

鶴田、北入蔵、西潟等、山からかなり離れた場所でも熊の出没が相次いでいる

地元消雪組合の持続的維持

Q 空き家の増加で構成世帯数が減り、今後維持存続できず解散する組合が出てくる想定はしているか。

A 想定している。

Q 消雪組合連合的なものをつくり、市で一括管理するべきではないか。

A 規模や積立金の有無等、組合により事情がさまざまであり難しいが、将来的には消雪パイプを一括して市が引き取る状況も想定しなければならない。

西村 邦明 議員の質問

登下校の歩道除雪について

Q 小学生の低学年の登校時、除雪を近所のお年寄りが行っていたが、高齢のため今年からできなくなった。これは、市内すべての学区の問題である。通学路の安全確保から除雪をどのように考えているか。現状と課題について伺う。

A 市道における歩道除雪は、機械除雪が可能で堆雪場所が確保できる区間を対象に、歩道上の積雪が20センチを上回る場合で実施している。急な積雪により通学路の除雪状況が不十分な場合には、学校や地域、保護者からの連絡を受け、建設課に早期の除雪を依頼している。降雪のタイミングによって、登校時までに除雪が間に合わない箇所が出てくることについてはご理解いただきたい。

三之町病院側の危険な歩道について

Q 病院側の歩道は傾斜を付けてあり、大変急な所が幾つもある。雪が積もる時期は最も危ない。近所の人たちは反対側の平らな歩道を歩くようにしている。特にお年寄りや目の不自由な方、足腰に障がいがある方にとっては危険な歩道としか言いようがない。改修はできないのか。

A 現状の側溝の改修や歩道、車道の幅の見直しで改善できる可能性がある。今後詳細な測量を進めたい。関係する地域の皆さまのご理解とご協力をいただきたい。

岡本 康佑 議員の質問

三条市サンキッズカード事業について

Q 子ども3人目からのサービスであるサンキッズカード事業を見直してほしいとか、子ども1人目からサービスを受けられるよう改めるべきだという意見はないのか。またこれらの見解はどうか。

A 以前より問題意識は抱えていたところである。トークイベントにおいて、参加者からも直接、他市と同様に子ども1人目からサンキッズカードのサービスを受けられるようにしてほしいといった意見があった。

少子化が進行している現代において、子育てしやすい環境の醸成のため、子育て世帯を支援していくことは極めて重要なものと捉えている。

そのため、子ども1人目からを対象にサービスを提供できるよう、目下、サービスそのものを検討しているところであり、新しい子育て応援の仕組みが選びたくなるまち三条の実現に向けた魅力の一つとなるよう取り組んでいく。

近隣自治体間の広域連携と県央地域の広域連携等について

Q 県央自治体の首長連携をどうしていきたいか。

A 現時点では、具体的な会議体等を設置することは考えていないが、しっかりと課題を見つけて把握し、県央5市町村で連携した方がよい場合は、取り組むことも想定している。